

## ニュースクリップ & 映像教材

### 文部科学省情報

#### ■ SNS上における暴力行為等の動画の投稿・拡散を受けた情報モラル教育の動画教材公開

学校デジタル化プロジェクトチームでは、児童生徒間の暴力行為等の動画が、SNS上に投稿・拡散された事案に対し、「SNS等における投稿のエスカレートや拡散により生じる誹謗中傷等の人権侵害の危険性を題材とした動画教材」を作成。本教材を含め情報モラル教育で活用できる動画教材等の一覧がわかるリーフレットも作成し、同省HPに公開している。

<内容>○授業等において活用可能な動画教材「SNS上における暴力行為等の動画の投稿・拡散事案に関する情報モラル教育の充実」(20分程度)、動画 (<https://youtu.be/kBKIsXSHJgo>)、スライド資料 ([https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/videocontent/pdf/260302\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/videocontent/pdf/260302_2.pdf))

○研修等において活用可能な動画教材「暴行動画の投稿・拡散と SNS 炎上・教職員が知っておくべき仕組みと留意点」(15分程度)、動画 ([https://youtu.be/R\\_cRF42mLu8](https://youtu.be/R_cRF42mLu8))、スライド資料 ([https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/videocontent/pdf/260302\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/videocontent/pdf/260302_1.pdf))

○情報モラル教育に関する動画教材等を紹介するリーフレット ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/20260302-ope\\_dev02-2.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/20260302-ope_dev02-2.pdf))

<問い合わせ先>文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチーム 情報教育振興室 情報教育振興第二係 TEL 03-6734-2702 (直通)

#### ■ 「子どもの読書活動推進フォーラム」開催

文部科学省、国立青少年教育振興機構主催により、標記フォーラムが開催される。

<日時>令和8年4月23日(木) 13:00~16:40  
<会場>国立オリンピック記念青少年総合センター・カルチャー棟(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

<内容>文部科学大臣表彰、特別講演「脳科学から見た読書のすすめ」酒井邦嘉氏(言語学者・東京大学大学院総合文化研究科教授)、ポスターセッション等。入場無料。定員600名。事前申込。申込締切は、令和8年4月20日(月)。事前申込なく当日座席の余裕がある場合には、当日参加も可能。なお、当日の様子は、YouTubeにて、ライブ配信される。

<問い合わせ先>国立青少年教育振興機構教育部事業連携課事業係 TEL 03-6407-7621

### AV情報

#### ■ IPA「情報セキュリティ10大脅威2026」解説書を公開

(独法)情報処理推進機構(IPA)は、2025年に発生した社会的に影響が大きかったと考えられる情報セキュリティにおける事案(個人の1位「インターネット上のサービスからの個人情報の窃取」、組織の1位「ランサム攻撃による被害」以下、それぞれ10位までの項目)について、その対策・普及の一助となる解説書「情報セキュリティ10大脅威2026」(組織編)を公開。詳細は、IPAのホームページ「情報セキュリティ10大脅威2026」を参照。

<問い合わせ先> IPA 10大脅威事務局セキュリティセンター MAIL isec-10threats@ipa.go.jp

### ■東京大学先端科学技術研究センター「～理系女子のリアルを覗こう～放課後トーク」オンライン開催

東京大学先端科学技術研究センター先端教育アウトリーチラボによる標記の女子中高生向け進路支援プログラムがオンラインにより開催される。

<日時>令和8年4月28日(火) 19:00～20:00

<対象>中高生(性別問わず、どなたでも)、学校関係者、保護者

<内容>理系分野で活躍する学生や研究者をゲストに迎え、研究内容等のお話。参加費無料。要事前登録。「先端教育アウトリーチラボ」ホームページより申込。

<問い合わせ先>先端教育アウトリーチラボ事務局 MAIL office@aeo.rcast.u-tokyo.ac.jp

### ■「第17回EDIX(教育総合展)東京」開催

EDIX実行委員会主催により、教育分野の標記展示会が開催される。

<日時>令和8年5月13日(水)～15日(金) 10:00～18:00、最終日のみ17:00終了。

<会場>東京ビッグサイト東1・2・3(東京都江東区有明3-11-1)

<内容>業務支援・DX、教材・コンテンツ、学びの環境づくりの3つのエリアでの展示、セミナー等。事前登録により、無料。

<問い合わせ先>RXJapan(株)

TEL 03-6739-4126

## コンクール・助成情報

### ■中央教育研究所「教科書研究奨励金」公募

(公財)中央教育研究所では、若手の研究者による教科書に関する研究の発展と日本の教育の改善を目的とし、教科書に関する研究に奨励金を交付しており、その交付先を公募している。

<助成対象>日本および諸外国の学校またはその他の教育機関で使用されている教科書についてのさまざまな研究。教科は問わない。教科横断的な研究、諸外国の教科書研究等。

<応募資格>大学院生、大学教員、研究者/個人研究または共同研究。

<交付金額>1件につき25万円。

<締切>令和8年4月25日(土)

<問い合わせ先>(公財)中央教育研究所  
TEL 03-5390-7488

### ■「第67回科学技術映像祭」作品募集

科学技術への関心を喚起するとともにその普及と向上をはかり、科学技術の振興に資することを目的として、(公財)日本科学技術振興財団、(公社)映像文化製作者連盟、(公財)つくば科学万博記念財団、(一財)新技術振興渡辺記念会主催による標記映像祭では、作品を募集している。

<募集対象・部門>○一般部門、○学生部門(大学生まで。社会人でも大学(大学院除)の学生は対象)の2部門。なお、一般部門は、応募料1作品15,000円。学生部門は、無料。

<応募資格>日本所在の製作者、企画者(スポンサー)、テレビ局、学術研究・教育機関および個人が製作した作品。

<募集要件>令和7年4月1日から令和8年3月31日までに完成した作品で本映像祭へ初出品であること。作品の上映時間は、10分以内の短編とそれ以外として、最長90分以内。メディアは、映画・ビデオ、テレビ番組、インターネット等で配信・配布されている動画等。作品制作におけるAIの利用については、利用の有無と利用した場合の具体的な利用箇所等について記載のこと。

<賞>内閣総理大臣賞(賞状および副賞)1作品、文部科学大臣賞(賞状および副賞)4作品他。

<締切>令和8年4月30日(木)消印有効。

<問い合わせ先>科学技術映像祭事務局  
(公財)日本科学技術振興財団人材育成部  
TEL 03-3212-8487(土日祝日除)

### ■令和8年度第42回学習デジタル教材コンクール作品募集

(公財)学習情報研究センターでは、標記コンクールの作品を募集している。

<応募資格>○団体(学校、教育委員会、教育センター、その他教育機関、研究グループ等、教員の指導のもとにある児童生徒)、○個人(学校の教員、教育委員会、教育センターの教育関係専門職、その他教育経験者等(大学生含))。

<対象作品>○教員等(大学生含)が作成したも

の。児童生徒の学習のために作成したデジタル教材・アプリ（ソフトウェアや教材等を創意工夫によりパッケージ化されたものを含）、既存のデジタル教材・アプリ等を活用した授業実践事例。

○児童生徒が作成したもの。教員の指導のもとに、児童生徒が学習活動の一環として作成したデジタルの成果物。

<賞>文部科学大臣賞（団体賞、個人賞）、学情研究賞、企業賞を予定。各賞の賞金5万円。

<応募期限>令和8年5月7日（木）

<問い合わせ先>（公財）学習情報研究センター  
コンクール係 TEL 03-6205-4531

### ■JAXA「ミッション報告会」主催団体募集

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、国際宇宙ステーション（ISS）での長期滞在ミッションを終え、地球に帰還した宇宙飛行士の日本への帰国後、その成果や経験を広く社会に伝えるため、本報告会開催にあたり、主催団体を募集している。

<開催時期>令和8年8月～令和9年2月のうちいずれか1日。

<募集内容>宇宙飛行士 油井亀美也氏、大西卓哉氏のミッション報告会を開催する団体を募集。

<募集する主催団体>小中高等学校、大学等、自治体、企業、一般団体等。報告会の参加対象は、小学生以上。

<締切>令和8年5月15日（金）

<問い合わせ先>油井宇宙飛行士ミッション広報事務局 MAIL yui.mission@hakuodo.co.jp

### ■NHK「日本賞」作品募集

NHKでは、世界中の教育コンテンツの質の向上に貢献すること、社会と文化の相互理解を促進することを使命として、標記コンクール実施にあたり、作品を募集している。

<応募資格>応募作品を制作・放送する、または著作権を有する放送事業者／配信事業者、映像制作プロダクション、デジタルコンテンツ制作プロダクション、教育研究機関、非営利活動団体および非政府組織など。個人による応募は受けない。なお、1機関が応募できる作品数は最大で計4作品。応募は無料。ただし、通信料など提出に関する経費は応募側の負担とする。

<部門>1 幼児向け、2 児童向け、3 青少年向け、4 一般向け。

<応募対象>テレビ番組、映画、ビデオ作品（尺60分以内）、デジタルメディア作品（ウェブゲーム、ゲーム、アプリケーションソフトウェア、クロスメディアコンテンツ等）。

<賞>グランプリ日本賞、各部門最優秀賞、各部門優秀賞他。

<締切>令和8年6月9日（火）

<問い合わせ先>日本賞事務局

MAIL s04603-japan-prize@nhk.or.jp

### ■（公財）ちゅうでん教育振興財団「第26回ちゅうでん教育振興助成」募集

（公財）ちゅうでん教育振興財団は、全国の小・中学校における教育活動を支援するとして、標記助成先の募集を開始する。

<対象>全国の小・中学校、特別支援学校（小・中学部）の教職員個人または教職員グループ（専修学校・各種学校は対象外）。

<募集内容>今日的な教育課題の解決につながる実践および研究。学習指導要領の実施に役立つ多様な分野にわたる教育実践・研究等。家庭や地域社会と連携した、多様な分野にわたる教育実践。  
<助成>学校内で行われる多様な教育実践を対象にした「学校支援コース」（助成金額：10～30万円）、複数校の教職員による研究・研修を対象にした「団体研究コース」（助成金額：10～50万円）。総助成件数両コースあわせて、150件程度。

<締切>令和8年6月12日（金）必着。

<問い合わせ先>（公財）ちゅうでん教育振興財団 TEL 052-932-1741

### ■「寄付講座JASRACキャンパス」募集

日本音楽著作権協会（JASRAC）は、教育機関における著作権等の教育・研究の充実を目的に、著作権に関する標記の2026年度公募型寄付講座の募集を開始する。

<対象>大学、大学院、短期大学、専修学校専門課程および高等専門学校。

<内容>寄付講座設置件数5件程度を予定。寄付金額は、1件当たり年間500万円まで。

<応募条件（抜粋）>①講座の目的が、寄付先における著作権等の教育・研究を充実させ、文化芸

術および著作権が尊重される社会の実現につながる新たな価値の創造または人材の育成に資するものであること。②2027年度または2028年度に初めて講ずる講座であること。③2年以上5年以下の期間で講座を継続して設置できること。④複数の学部、研究科または学年にまたがる学生が履修できること等。

＜募集期間＞ 令和8年5月7日（木）～6月19日（金）

＜問い合わせ先＞ JASRACのホームページより、「寄付講座JASRACキャンパス」募集要項より問い合わせのこと。

## 各地の情報

### ■「仙台短篇映画祭」作品募集

仙台短篇映画祭実行委員会主催により、標記映画祭開催にあたり、作品を募集している。

＜応募作品＞応募資格は一切問わない。令和7年以降に制作された「短篇映画」。作品は20分以下のもの。オリジナル形式はフィルム、ビデオ、DVD、Blu-rayDisc。作品は、ひとり1作品のみ等。

＜内容＞選考により上映作品を決定し、映画祭において、映画界で活躍する方をコメンテーターとして招き、上映作品監督、観客を交えトークセッションを行う。期日の詳細は、仙台短篇映画祭のホームページを参照のこと。

＜締切＞令和8年5月10日（日）消印有効。

＜問い合わせ先＞仙台短篇映画祭実行委員会 公募係 MAIL info@shortpiece.com

### ■「富山映像大賞2026」映像作品募集

富山市では、映像を通して富山市の魅力を発信し、まちなかの継続的な賑わいの創出を目的として、「富山映像大賞Toyama Media Art International Triennale」を開催するにあたり作品を募集する。

＜テーマ＞プロフェッショナルコース「やさしい世界ー量子の恋」、市民向けコース「希望」

＜応募条件＞プロ・アマチュア／個人・グループ・企業を問わない。市民向けコースにおいては、応募の時点で富山市内に在住または富山市に通勤通学していること等。

＜作品対象＞短編映像作品（ジャンル問わず、5分以内）、テーマをもとにした映像作品。応募費用

無料（ただし、応募にともなう一切の費用は応募者負担）。

＜賞＞プロフェッショナルコース グランプリ 1作品 賞金100万円、市民向けコース 最優秀賞 1作品 賞金5万円。

＜締切＞令和8年5月31日（日）日本時間13:00まで（必着）。

＜問い合わせ先＞富山市活力都市創造部 まちづくり推進課 TEL 076-443-2054

### ■Educational Solution Seminar 2026 in 鹿児島

（社）日本教育情報化振興会では、情報教育対応教員研修全国セミナーとして、「教育の新たな未来を拓く～GIGA×AIで子どもの学びと教員の働き方を支援」をテーマに、標記セミナーを開催する。

＜日時＞令和8年4月18日（土）10:00～16:20  
 ＜会場＞センテラス天文館6階センテラスホール（鹿児島市千日町1-1）

＜内容＞セミナー、企業展示等。入場無料。要事前申込。セミナーは先着順、定員になり次第締切。

＜問い合わせ先＞Educational Solution Seminar 事務局 MAIL x-kagosemi@fujielectric.com

## 文部科学省選定作品

### ■2月選定 紙しばい ㊦ DVD

「気候変動と資源・エネルギー問題～カーボンニュートラルの実現を目指して～」㊦12分＜中学校、社会／社会教育（中学校生徒）、国民生活（環境・資源・エネルギー）＞（株）放送映画製作所東京支社

「探求！どうする日本のエネルギー～資源・エネルギーからみた日本の特色～」㊦12分＜中学校、社会／社会教育（中学校生徒）、国民生活（環境・資源・エネルギー）＞（株）放送映画製作所東京支社

「ホールディング・リアット」㊦97分＜青年・成人、国際性（国際理解・平和）＞ユナイテッドピープル（株）

映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/movie/](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/)

※本欄掲載のイベント開催等の最新情報は、主催者＜問い合わせ先＞に、ご確認ください。



## 「NFAJデジタル展示室」

国立映画アーカイブ主任研究員 岡田 秀 則

2013年、国立映画アーカイブの前身である東京国立近代美術館フィルムセンターは所蔵するノンフィルム資料の画像をインターネットで公開する「NFCデジタル展示室」(現「NFAJデジタル展示室」)を開設した。これは当館コレクションを公式に公開する初の試みだが、以来、映画をめぐるポスター、写真、脚本など日本の映画史から生まれた多彩な宝物をテーマごとに紹介し、それぞれの資料の解説にも力を入れている。現在も年に2回程度更新を行い、2024年度の段階で32回となった。もちろん公開資料には、公衆送信権に抵触しないよう著作権保護期間を終えたものを選び出している。映画資料の名コレクター御園京平の旧藏品など、貴重な個人コレクションの蓄積が、こうした初期の映画資料の充実に寄与している。

これは、露出度を上げにくい映画資料を広く一般に公開する試みだが、教育機関での教材としての役割も果たすだろう。これまでもっとも多く注目を浴びたのは、2013年度から2015年度まで8回に分けて公開した、全国各地の大正期から昭和初期の映画館の写真だろう(資料)。これらは戦前期の「キネマ旬報」誌が調査部を擁した時代に撮影・収集され、最終的に1970年代に当館収藏品となった。公開以来、テレビ番組の制作会社から画像使用の問い合わせが急増し、現在も使用の希望が度々寄せられ、研究者からのアクセスの要望も多い。これは映画研究の諸分野の中でも近年映画館・観客に関する研究が盛んになっていることの反映であろう。なお、出版物・映像などへの資料画像の使用には「特別観覧」というスキームの申請手続きを要することを付記しておく。

また、フィルムが現存しない映画でも、ス

資料・NFAJデジタル展示室記事一覧

第1～2回 戦前期日本の映画ポスター(1)～(2)

第3～10回 戦前期日本の映画館写真

(1)東京・浅草篇、(2)東京・銀座 有楽町 日比谷篇、(3)東京・新宿 渋谷 神田 六本木篇、(4)京都篇、(5)大阪 道頓堀・千日前篇、(6)大阪 新世界 なんば 梅田 阿倍野篇、(7)神戸 名古屋篇、(8)日本各地篇

第11～19回・22回 無声期日本映画のスチル写真

(1)日活向島篇①1910年代、(2)日活向島篇②1920年代、(3)日活京都篇①1910年代、(4)日活京都篇②1920年代、(5)天活・国活・大活篇、(6)帝国キネマ①、(7)帝国キネマ②、(8)新興キネマ、(9)マキノプロダクション①、(10)マキノプロダクション②

第20～21回 澤村四郎五郎コレクション(1)～(2)

第23～25回 戦前期外国映画の日本版ポスター(1)～(3)

第26～28回 戦前期の日本の映画撮影所(1)～(3)

第29～32回 スチル写真で見る「失われた映画たち」

(1)小津安二郎監督篇①、(2)小津安二郎監督篇②、(3)田坂具隆監督篇①、(4)田坂具隆監督篇②

チル写真だけは残存している例が多いため、そうしたスチル写真を公開することで失われた映画の痕跡をたどることが可能になる。10回の長期連載となった「無声期日本映画のスチル写真」や、フィルムの現存しない巨匠監督の初期作品を紹介する「スチル写真で見る「失われた映画たち」」は、現存するフィルムだけで映画史を学ぶことの危うさを鋭くリマインドしてくれる。

なお当館は、2023年度に新しい「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」を開設して映画資料のデジタルアーカイブへの一歩を踏み出したが、従前からの「NFAJデジタル展示室」はあくまでキュレーションを基に構築されていることが特徴である。

このウェブページは20世紀社会における映画の大きなプレゼンスや、初期から豊穡であった日本映画史のありようを学べる格好の場所になるだろう。URLは以下の通りである。

<https://www.nfaj.go.jp/onlineservice/digital-gallery/>